

## 新たな自閉症・情緒障害特別支援学級設置について

### 1 自閉症・情緒障害特別支援学級の状況

- ・ 開設日：令和3年4月1日
- ・ 設置校：第二小学校（さくら学級）
- ・ 児童数及び学級数：22人・3学級（令和4年4月1日現在）
  - ※ 1学級定員は8人
  - ※ 令和3年度途中で他県情緒固定級から2人が転入

### 2 就学相談・転学相談での同学級の希望状況

	同学級を視野に入れた相談件数	入級数	入級しなかった数（理由別）	
			通学 （距離・手段・時間）	その他の理由
令和3年度に向けた相談 （令和2年度中に実施）	24件	9件	5件 （うち市外転出2件）	10件
令和4年度に向けた相談 （令和3年度中に実施）	31件	11件	7件	13件

※通学を理由に入級を選択しなかった方の主な居住地：西砂町、一番町、高松町、柴崎町

### 3 学級設置の現状

- ・ 令和3年4月開設の二小「さくら学級」では指導の成果が着実に表れており、対象となる児童が早期に適切な指導・支援を受けられるよう、さらなる環境整備を行っていく必要がある。
- ・ 保護者や小学校長会、議会から、さらなる学級設置を求める声が寄せられている。
- ・ 就学相談、転学相談の状況から、自閉症・情緒障害特別支援学級への入級希望は継続的に生じると考えられ、近いうちに4学級となり、第二小学校さくら学級のみでは受け入れは困難となる（第二小学校の施設状況等から最大3学級とするのが適当）。
- ・ 通学を理由に第二小学校「さくら学級」への入級を選択しないケースがあり、市内他地区（特に北西部）での学級設置が必要とされている。

⇒今後も対象児童数が増え、「さくら学級」が3学級を超えることが確実なことから、令和5年4月に、第二小学校以外の新たな学級の設置が必要と考えている。

### 4 増設対象校の選定【裏面】

- ・ 通学時間等を理由に就学・転学を諦めるケースを減らし、障害による個別の教育的ニーズに対応していくため、①相談対象者の状況・地理的な視点、②アクセス面、③施設の状況など多面的な見地から総合的に勘案し、大山小学校を増設対象校と考えている。

### 5 今後の流れ

- ・ 大山小学校への自閉症・情緒障害特別支援学級の新設に伴い、保護者や地域の方々に対する周知を行うほか、学校教職員や市教育委員会などから成る「開設準備委員会」を発足させ、令和5年4月の円滑な開設に向けた準備検討を進めていきたい。

# 自閉症・情緒障害特別支援学級/増設候補校比較

◎:3点、○:2点、△:1点、×:0点

学校名	①相談対象者の状況 ・地理的な視点  (通学を理由に断念した児童の数) ◎北西部 ○北東部 △北部中央	②アクセス面  車:駐車場・道路付け、 バス:停留所・本数、 電車・モノ:徒歩圏内 を総合的に判断		③施設の状況  (余裕教室の状況) ◎4教室以上 ○3教室 △2教室 ×1教室以下 ※最低2つの普通教室が必要		④学校経営の程度  ◎学校経営に支障なし (特別支援学級・通級指導学級無し) ×学校経営が難しい (特別支援学級・通級指導学級有り)		総 得 点	合 点
		得点	得点	得点	得点	得点	得点		
1 若葉台 小学校	○北東部	2	△	1	×	0	×	0	3
2 幸 小学校		2	◎	3	△	1	◎	3	9
3 柏 小学校		2	○	2	△	1	◎	3	8
4 第 八 小学校	△北部中央	1	◎	3	◎	3	×	0	7
5 第 十 小学校		1	○	2	×	0	×	0	3
6 大 山 小学校	◎北西部	3	◎	3	◎	3	◎	3	12
7 第 九 小学校		3	○	2	△	1	×	0	6
8 上砂川 小学校		3	○	2	◎	3	◎	3	11
9 松 中 小学校		3	○	2	○	2	×	0	7
10 西 砂 小学校		3	○	2	×	0	◎	3	8